

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 北海道地方ブロック中間共有会 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の促進
ー 環境・観光・子育て教育・定住を統合した取り組み』

活動団体の活動地域：北海道天塩郡豊富町

活動団体名：一般社団法人 豊富町観光協会

中間支援主体名：学校法人 北海学園大学

活動状況（計画の進捗状況）

■7月3日 豊富町キックオフミーティングの開催

これからの豊富町の地域課題とその解決策の検討を行い、豊富町の子供たちが未来をワクワクできる、そんな豊富町を地域全体（協働）で作りに上げるためのスタートとするために実施

（目的） 仲間づくり、地域課題の洗い出し・解決策の検討

（参加者） 教育関係者・酪農家・温泉宿泊事業者・子育てサークル・現役子育てママさん
観光ガイド事業者 計11名

■8月22日～9月25日 大学生を招聘しての豊富町インターンシップの実施

道内・道外の大学より学生を豊富町へ招聘し、豊富町の主産業・生活・教育について体験、理解をしてもらい、若者の感性を活かした多種多様な観点からアイデアを生み出し、そのアイデアを教示いただき、地域づくりへ活かしていくもの

（目的） 若者視点から見た豊富町の可能性やアイデアについて教示、学生も地方創生の学びや他学生との交流を図る。

（参加校） 北海学園大学、大阪成蹊大学、久留米大学

■10月16日 第2回ワクワクとよとみ未来会議の開催

7月3日のキックオフに続き第2回目を開催し、名称を「ワクワクとよとみ未来会議」と称した。

1回目での内容をもとに更に深掘りを行った。

仲間づくりの部分でも新規参画者を大幅に増やすことができ、今後の地域づくりへの基盤を作成できた

（目的） 仲間づくり、地域課題の更なる深掘り・解決策の検討

（参加者） 教育関係者・酪農家・温泉宿泊事業者・子育てサークル・現役子育てママさん・町内飲食店事業者・環境団体・観光ガイド事業者 計17名（6名新規参加）

活動状況（計画の進捗状況）

■第1回豊富町キックオフミーティング



■第2回ワクワクとよとみ未来会議



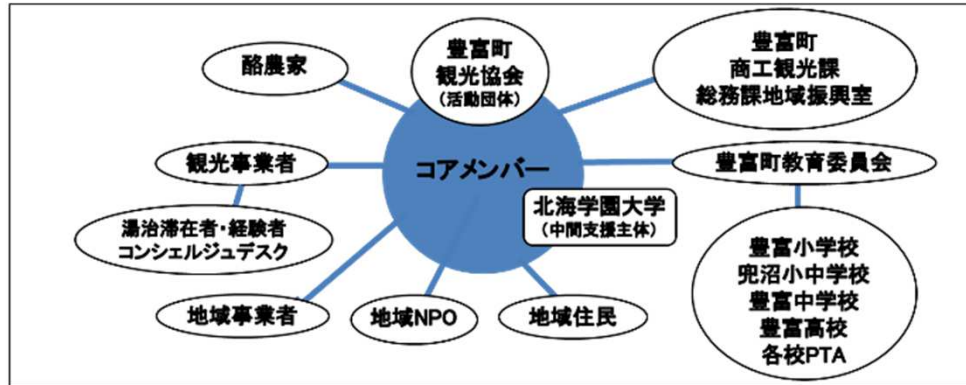
活動状況（計画の進捗状況）

■大学生インターンシップ



現在の“地域プラットフォーム”

① 現在の地域プラットフォーム



足りない資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む
・地域体制の構築（町民参加を推進する仕組み等） ・地域全体の意識の共通
・地域資源の活用法ノウハウ、情報 ・地域外からの視点

② 地域プラットフォームの進展、変化

- ・今年度はプラットフォームの形成を目指しており、意見交換会を2回開催したことで、地域の課題や魅力を洗い出すことができた
- ・今夏に大学生の地域インターンシップを実施したことで、受入事業者にはインターンシップの意義と課題を認識してもらえた

③ 地域プラットフォームづくりで困ったことや課題

- ・意見交換会では、参加者の間で地域課題の洗い出しと共有化ができたが、事業化の糸口が見えるのはまだ先になりそうだ
- ・地域の核となる人や組織はまだ存在しており、声かけを継続していく必要がある

④ 課題解決に向けた今後の展望

- ・意見交換会では、教育や子育てが地域課題と認識されており、今冬に先進事例を視察して今後の活動に活かしていく
- ・来年度の大学生の地域インターンシップのプログラムを改良し、受け入れ先を拡げていく必要がある。来年3月までには、募集要項を策定して募集を始めていく予定

コンセプトペーパー（マンドラ）案

地域資源

- ・ 豊富温泉（湯治によるアトピーの治療）
- ・ サロベツ湿原、壮観な景勝地（大規模草地、利尻富士）
- ・ 酪農、乳製品の六次産業化（バター、ジェラート、スコーン他）
- ・ 活躍するヒト

地域課題

- ・ 若い人が少なく、人口減少が進んでいる
- ・ 中学・高校卒業後に地域を離れ、ほぼ戻らない（地元愛を育むことが必要）
- ・ 魅力がある職が少ない（今後は人手不足でより深刻になるかも）
- ・ 通過型観光であり、滞在型観光を増やしていくことが急務

ありたい未来

- ・ 子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくこと

取組・成果

- ・ 「わくわくとよとみ未来会議」の開催で、地域課題や地域の魅力を共有化
- ・ 「地域インターンシップ」で大学生を受け入れて住民と交流・対話を実施

中間ふりかえり（活動団体）

気づきや発見

- 地域への課題解決を考えている人、地元を変えようと思う人が大変多く、今回の活動をきっかけに共通意識をもつ「仲間」がたくさんできた。
- この町に住んでいては気づけない良い所、課題点を知ることが出来た。
(外からの視点・気づき)

課題や悩みに感じていること

- 官民の連携、行政の理解を得る事が難しい
(短期的な実績を期待される)

地域課題への取組の温度差

中間ふりかえり（中間支援主体）

気づきや発見

- 想像していた以上に、地域の核となるヒトが多く存在している（40人以上？）。
- 今後、小中高校との連携を進めていく際に、教員の異動で活動が停滞しないように手を打つ必要がある。

課題や悩みに感じていること

- 地域課題の解決につなげるSDGs事業をどのように作りだしていくべきか。
- 地域インターンシップに参加する学生の確保と養成プログラムの開発と実践。また、大学生に地域づくりを俯瞰的に理解させることの難しさ